

日本学術会議第 81 回総会報告

日本学術会議第 12 期最初の第 81 回総会は、1981 (昭和 56) 年 1 月 20, 21, 22 日の 3 日間、本会議講堂で開かれた。

第 1 日は、定刻 9 時 30 分開会。直ちに会長、副会長選挙に入り、会長に伏見康治第 4 部会員、人文科学部門副会長に岡倉古志郎第 2 部会員、自然科学部門副会長に塚田裕三第 7 部会員を選出した。

午後は、第 12 期の活動を円滑にするための予備的検討委員会の報告が行われた。その後各部会を開き、それぞれ部長、副部長、幹事を選出した。

第 2 日は、15 時すぎまで第 11 期の経過報告にあてられた。伏見会長は、前期の本会議の活動について所感をのべ、総合的な科学技術振興策樹立の必要を強調した。つづいて運営審議会付置各委員会、各部、各常置委員会、各特別委員会から経過報告が行われた。各報告とも、特に 80 数名の新会員を念頭において、学術会議全体、各部、各委員会の性格や活動をうきぼりにする配慮の下で行われた。なお、第 12 期への引継ぎ事項等も報告された。その後各部会を開き、第 12 期の活動計画等について審議した。

第 3 日は、まず「第 12 期活動計画委員会 (仮称) の設置並びに各種委員会の当面の措置について (申合せ)」が提案され、運営上の問題等について意見が出されたのち、原案を可決した。

つづいて第 12 期活動計画に関する自由討議に移った。学術会議の活動の基本的なあり方については、総合的・学際的とりくみ、個々の科学者との連繋、長期的展望をもつた継続性の必要等が強調された。さらに学術会議の組織・運営上のたてまえとしての自主・民主・公開の重要性等が指摘された。それとの関連において第 12 期に具体的にとりあげるべき重点課題として、人文・社会・自然科学の総合的発展の方策、都市問題、平和問題、福祉問題、学問体系の現状の洗い直し、学術情報生産・流通問題、発展途上国との学術協力問題、教育問題、学歴社会問題、国公立大学問題、婦人科学者問題、食糧問題、原子力問題、沖縄問題等々が、新会員を含む 30 数名から提起された。

さらに第 12 期活動計画をめぐる討議の一環として、第 80 回総会において採択された「工学技術振興の方途を早急に講ずることについて (要望)」について説明があり、これをめぐって種々の質疑、意見がかわされた。

総会終了後、各部会をひらき、第 12 期活動計画委員会の委員の選出などを行なった。引きつづいて第 1 回の第 12 期活動計画委員会を開いた。

こうして第 12 期の活動が始まった。会員の出席率は、第 1 日 97.6%、第 2 日 95.7%、第 3 日 93.8% であった。